

令和4年度 小野小学校研修推進計画（案）

1 研究主題

「学ぶ楽しさを実感し、ともに考え、深め合う小野っ子の育成」
～デジタル学習とアナログ学習の良さを生かした授業づくり～

2 主題設定の理由

昨年度は、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進めながら、ICTを効果的に活用することで、学習意欲の向上や、学習内容の確実な理解だけでなく、協働的な学びにおいても、互いの考えを視覚的に共有したり、課題に対する意見整理を円滑に進めたりしようと研修を進めてきた。その結果、Google Workspace for Education（JamboardやGoogleClassroom、GoogleMeet）、iPad（AirDropやミラーリング）等のICT活用スキルを高めることができた。しかし、視覚支援や参加促進が主になってしまい、協働的な学習のツールとして使うには、さらなる研修が必要である。低学年で、文字の入力に時間がかかることや考えの比較をさせる際、現状では画面に3つ以上の考えを表示することができない等のソフト面での課題も浮き彫りとなった。また、ICTを使った方が有効な場面と、実際に書いたり話したりする方が考えの深化に有効な場面を見極めながら、バランスよく授業の中に取り入れて行くことにも課題が残った。

今年度は、これらの課題を解決し、より効果的にICTを活用し、さらに協働的な学びを推進していきたい。そのためには、一人一台端末という「ハード」だけでなく、デジタル教科書や教材、AIドリル、学習用オールインワンソフト等の「ソフト」の充実が必要である。さらにこれらの「ハード」と「ソフト」を活用し、児童の思考をつなぐための、教師の「指導スキル」も重要となってくる。この3つを一体として、ICTを活用することが、授業のさらなる向上につながると考える。

また、ICT機器を用いたデジタル学習には、資料やデータの加工や保存、伝達に優れていて、自分の考えの加筆・修正がしやすく、複数の考えの共有も瞬時に行えたり、画面上でやりとりできるため、人前にでることが苦手な児童も、授業に参加しやすくなりたりするメリットがある。一方で、アナログ学習には、実際に対面して話をする中で、考えの細かなニュアンスをつかめたり、曖昧なものもそのまま表現することができるため、感覚的に理解できたり、量感・質感等、体験を通して学習することができるメリットがある。協働的な学びをさらに推進していくためには、デジタル学習とアナログ学習の双方のメリットを生かせるように、バランスよく授業の中に組み入れていき、最大の教育効果が得られるようにする必要がある。

以上のことから、サブテーマを「デジタル学習とアナログ学習の良さを生かした授業づくり」とし、研修を進めていく。

3 研究仮説

「デジタル学習とアナログ学習をバランスよく授業の中に組み入れることで、協働的に学習に取り組むことができる」

協働的な学習のポイントとして、次の2つを挙げる。

- ・交流を通して、考えの深め合いや練り上げが行われること。
- ・友だちの考えを自分の学びにつなげ、高めようとしていること。

4 実践手段

①実技研修

- ②研究授業の実施
 - ・研究授業事前検討会（学年部）
 - ・研究授業事後検討会（全体）
 - ・研究授業参観チェックシート

③全国学力・学習状況調査の分析と活用

④学級経営流会（年度初め・年度末）と児童理解（月1回：職員会議で実施）

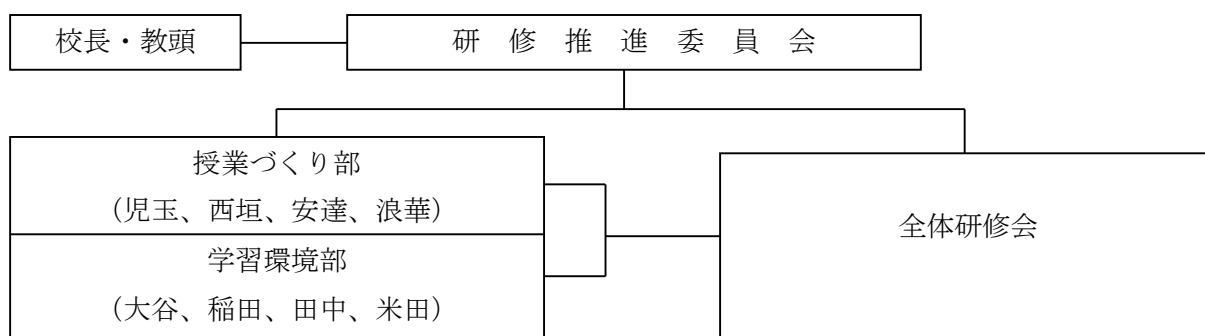
⑤本校の課題研修 - ・特別支援教育

- ・人権・同和教育
- ・総合的な学習時の時間のカリキュラム見直し

⑥研究の学びを残す・研究紀要の作成

- ・研修内容の伝達

5 研修組織及び各部の役割



※研推委員会 第1・3火曜日

※部会

第2・4火曜日

※全体研修会は、毎週水曜日（職員会議日を除く）

※全体研修会の司会は研修部のメンバーが順番で実施、記録は研修部以外が順に行う。

※生活指導部による「にこにこ週間」、「睡眠アンケート」、「アセス」等のアンケートの取り組みとも連携する。

(1) 研修推進委員会

① 全体研修について

ア 研修計画、研修組織

イ 全体研修内容にかかわる計画

- ・人権・同和教育・総合・環境・福祉・体育・特別支援教育・情報教育・各校種間連携等の取り組みについての研修

ウ 全体研修の進行

② 授業研究について

事前・事後研究の計画

③ 学級経営交流会

④ 研修アンケートの作成

⑤ 紀要の計画